

●2008年  
2月10日(日)  
PM

●実施者

- ・西田 真哉(トヨタ白川郷自然学校)
- ・古瀬 浩史(自然教育研究センター主任研究員)
- ・進藤 丈直(群馬県生涯学習センター社会教育主事)
- ・細田 昌史(エコインストラクター実習生)
- ・高橋 由希子(国立三瓶青少年交流の家法人ボラ)
- ・横濱 元己(国立赤城青少年交流の家企画指導専門職)

自然体験疑似体験(西田)

「体験をして心の変化があったかどうかたしかめたい。」そんな話からはじまった西田先生のお話。次に登場したのは、バナナのキーホルダー「このキーホルダーをよく観察してください。」「みなさんがふだん、どれだけよく観察しているか確かめます。」と、参加者に紙を配り、バナナの切断面のスケッチを書かせ始めました。参加者は必死になって、バナナの切断面を思い出しながら、絵の作成に悪戦苦闘。やっと完成した頃に、その絵を見ながら自己紹介を始めました。始まって5分。この時点で参加者の心はほぐれ始めていました。

お次は5人で合作。答えあわせをして、バナナの歴史にもふれました。始まって15分参加者の心は大ゆれでした。

「いきなり、バナナの断面図を描いてくれといわれて、心の変化はどうか?」「ないといったらうそになるでしょ。」「個人で何かを体験するということも大事だけど、こうやってシェア体験をすることがだいじなんです。」そんな話から始まった分科会でした。

ユニバーサルキャンプ事例発表(進藤)

次に元国立赤城青少年交流の家職員の進藤さんから、以前ここ赤城で行われたユニバーサルキャンプの事例発表が行われました。

ユニバーサルキャンプは、以前から行われてた「あったかぞく」というファミリーキャンプに「福祉」と「環境」の要素を取り入れて完成しました。

分科会の名称

## 自然体験とこころの教育

つまり

あったかぞく+福祉+環境=ユニバーサルキャンプ

という構図ができあがったのです。

第1回開催時には、前橋市社協ボラセンとの連携で開催され、年齢の差や障害の有無にかかわらず「心のバリアフリー」を目指し、障害児・家族 33 名、ボランティア 26 名が参加しました。第2回では、キャンプ協会の「第5回認知症高齢者キャンプ」とタイアップし、「Camp For All」自然の中で、みんながのんびりと楽しみながら、多くの人とふれあい、学びあうことを、趣旨として、高齢者10名、介護者2名、障害児、家族34名、ボランティア46名で開催されました。

成果としては、参加者に「障害や年代をこえた人人との関わりが生まれたこと。」「自分を受け入れたもらえた喜びを得られたこと。」「いききとした姿が見られたこと」、ボランティアに「たくさんの気づきや学びがあったこと」「相手の立場になって考え行動する態度が身に付いたこと。」「障害や加齢に対する理解が深まったこと」などがあげられました。

「このキャンプこそが本来ある社会の縮図でありノーマライゼーションである。」

というお話で最後を締めくくられました。

このキャンプは、翌年には、淡路で開催され、能登や埼玉など各地に拡がりを見せたそうです。

### SANbe スマイルキャンプ事例発表(高橋)

スマイルキャンプは、「適応指導教室に通う児童・生徒に豊かな自然体験を味あわせ、効果的な教育活動を行うこと」を目的とし、ふりかえりを重視したキャンプで適応指導教室と連携して行っています。

キャンプの形は、ボランティア参加者が主体的に参加できる形に年々変化していき、ボランティアの意識、参加者の姿勢も変化していきました。キャンプやボラの意識の変容についての説明があり、最後に参加者の具体的な変容が、一人の少女の事例を基に報告されました。

●場所 研修室2

●参加者 27 人

その少女は、何事にも消極的でしたが、1回目のキャンプで徐々に心の開放が見られ、2回目のキャンプでは、呼びかけに対する反応がよくなり、3回目には自分から話しかけてくるようになり、4回目には別の参加者のフォローやサポートしたりできるようになったそうです。

自然体験、人との関わりが彼女の心に大きな影響を与えたようです。

### 自然が開く心の扉(細田)

細田さんは、アスペルガー症候群(高機能広汎性発達障害)である可能性が高いそうです。細田さん自身が、どのような世界を行き、どのように生きてきたのか話をしてくださいました。

細田さんは、幼い頃は、指示が出ないと行動ができない少年でした。言われて初めて、やっていいということを理解できたそうです。

1年生まではとても活発な少年でしたが、2年生のときに、人への興味が無くなり、会話をしなくなりました。

自分の世界の中を生きるようになったのです。心配した親が医者に連れて行くと、アスペルガー症候群の可能性が高いという診断が出ました。小学時代には、難しい性格からいじめにもあい、暴力的にもなりました。しかし、中学時代にはいじめもなくなり、中高時代にはふつうに過ごせたようです。

そして再び高校の後半から二十歳ぐらいまでは、すさんだ生活を送ります。そして、その頃環境教育との出会いがありました。自分の興味のある大学にも入学しました。大学時代には、富山の草刈十字軍で活躍しました。

そして、そこでできた仲間との別れの体験が細田さんの心に大きな影響を与えたのです。それまで自分の世界を生きていた細田さんが人に興味を持つようになったのです。人に興味を持つようになった細田さんは、東京にある身近な自然を守ろうとする人達と関わるようになりました。大学3年の時には草刈十字軍の隊長になりました。しかし、そこで大きな挫折を